

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第13回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成22年8月6日(金) 午後3時40分～午後6時17分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1906会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、当間一則、山口義一、武井和幸、井上康子、武者裕子、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

部長

暑い中、ご出席いただきありがとうございます。本日はきちんとフォーマットを揃えた形で原稿を持ち寄っていただいた。また、活動事例の類型を五つに分け、実践例に偏りが無いよう平均化した表を考えてきた。もう1つ前回の課題であった語い力の活動例をどのように出していくかというあたりで皆さんのご意見をいただきたい。

はじめにアドバイザーと事務局よりご挨拶をお願いしたい。

アドバイザー

配っていただいた資料をざっと見て、時間に余裕があれば皆さんから素晴らしいアイデアがどんどん出てくるものだと思えて感じた。楽しみにしているのでよろしくお願いしたい。

事務局

今日は皆さんに事例を作ってきていただき、ほぼ全体的に広がりのある事例が一例ずつ揃ってきたということで、この後検討していただく。最終的に9月の中旬ぐらいまでにある程度形が整ったものにしたいと思うのでよろしくお願いしたい。

部長

本日の予定としては皆さんの原稿についてもう一度全員で見直していきたい。フォーマットを統一して見た感じはすごくいいと思うが、一つひとつをもう少し吟味する必要がある。どう書けばいいかわからないことを確認したり、このプロットは別の内容にした方がいいなど、そのあたりを統一していくために他の方の原稿も一緒に見ていただきたい。

まず私の考えてきたマトリクスだが、活動を「自己表出型(自己アピール)」「調べ学習型(プレゼンテーション)」「意見主張型」「イベント型(表現を楽しむ)」「表現技能を身につける」の五つに分類した。一番右には前回の課題であった語い力ということで書いてある。中に入れた事例は前回皆さんに書いていただいたものを当てはめているが、そうではなく提案させていたところもある。

マトリクスについて質問がなければ、マトリクス左の方から説明をお願いしたいと思う。では「練馬大根博士になろう」からお願いしたい。

委員

まず活動のねらいとして「農家の人たちとの触れ合い」「栽培や漬物作りを通して観察力や調べる力をつける」「調べたことをまとめて発表の仕方を身につける」という3点を挙げた。

本事例と表現力の関連では自分たちで作ったものを観察し、その記録を中心に調べていく力がつくことや、漬物作りを教えていただく農家の人と直接触れ合い、質問やインタビューをすることでどう接するかといった相手意識が生まれるというようなことを書いている。また全体発表というより6年生との小集団の中で発表することで、発表の仕方の素地を身につけてはどうかということも書かせていただいた。

小中一貫教育校で期待される効果については、3年生と6年生の交流の事例で小中一貫校でなくてもできるので、どう書いていいのか難しく、和やかな雰囲気発表する機会があればいいというようなことを書いた。

その他には指導計画の流れ、必要かどうか疑問だったが配当時間、次のページにはワークシートというのが難しかったので、交流会をこんなプログラムでやってみてはどうかというものをに入れてみた。

部長

1番目の活動のねらいは表現力をつけるためのことを意識して書かれているが、そういうことではないのではないか。2番目に本事例と表現力の関係、3番目に本事例が小中一貫校で期待される効果というプロットをつくった理由は、活動のねらいにはここでいえば総合的な学習の時間のねらいを書くためではないのか。前回、統括指導主事から提示された例でも生活科のねらいが書かれていた。

委員

前にいただいた体力の向上部会の資料では、活動のねらいは部会としてのねらいを記述するとなっていたのでこのようにしたのだが。

部長

前回そのへんをきちんと確認していなかったので申し訳ない。統括指導主事が2番目、3番目のプロットを足したのは、生活科の学習なのでまずは最初に生活科の学習としてのねらいを書き、この学習では表現力を身につけるための題材としてこんないいところがある、この場面でこういう力をつけるということを2番目に書くという意味だと思う。

2番目に関しては表現力との関連や価値が書いてありこれでいいのではないと思うが、3番目は3年生と6年生なのでどうするか難しいので皆さんの知恵をお借りしたい。もう1つ指導計画の流れで配当時間は必要か。

事務局

見通しがつくので付けていただきたい。

委員

3番目の小中一貫教育校で期待される効果については、小中一貫校でなぜこの実践が必要か

というのがもう少し明確になっていればいいと思うが、何かご意見はないか。

委員

私の担当した4年生の単元も小中一貫でなくても扱っているのですが、9年間を見越したスパンの中で4年生の時にはこういう力をつけて積み上げていくとしか書きようがなかった。

部長

事例を作った先生1人に任せるというのではなく、委員でもう一回考えましょう。指導計画の時数は入れるということで、三番目については課題として後回しにして次に行きます。

委員

各教科領域との関連が今回のフォーマットでは抜けていたが、書かなくていい項目になったのか。消してしまっていていいものかどうか迷っていたのだが。

部長

どうするかは統括指導主事からきちんと聞いていない。フォーマットが送られてきただけで、もう少し全体の流れが分かるようにしたいということ以外、詳しい説明は聞いていないが。

事務局

これについては残しておいてもらってよいか。各教科との関連はどの道つなげていく必要が出てくると思うので確認させていただく。

部長

それでは次に「学級活動、お話し会」と「1/2成人式」についてお願いしたい。

委員

4年生の学級活動で「下級生が楽しめる『お話し会』をしよう」という朗読の実践だが、4年生から下級生にということでも小中一貫でなくてもできる事例なので、3番目の期待される効果というのが今ない状態だ。

活動のねらいは書いてある通り。表現力との関連では学級活動なので、なるべく子どもたちがどうするか、どんな会にするかを話し合い、決定して実行するというのがベースにあり、表現方法を自分たちで工夫させ、今まで経験してきたことや学んできたことを生かして、表現力の向上や表現することの楽しさを味わわせたいと考えた。指導計画では下級生が楽しめる「お話し会」をしたいという提案を受けてという前提になっており、そういう提案が学級会では出るとは限らないのだが、本校では実際に議題として出た。その後、対象学年やどんなことをするかを話し合い「パネルシアター」「人形劇」の2グループに分かれ、その他には「1対1の読み聞かせ」をするという想定で書いている。グループごとの準備や練習を経て4時間目にはリハーサルを行い、気づいたこと等を話し合っ5時間目に行うという流れである。

本時の展開については2ページ目に書いてある通り。本校の実践ではそれぞれが自由な場所や姿勢で「1対1の読み聞かせ」を行い、とてもほほえましかったと担任から話を聞いている。

会の終りには活動を振り返り、よかったことを4年生、下級生が発表し合ってから先生の話を書く。最後には一緒に歌を歌ったとのことだ。

もう一つは総合的な学習の時間の位置付けの「1/2成人式」で、ねらいは書いてある通り。表現力との関連では自分自身について調べ、考えや思いをまとめて発表する機会を設け、保護者等に参加してもらうことで相手意識と目的を明確にし、表現しようとする意識を高め、表現力の向上を図るとした。

指導計画では最初に成人式について調べ、今までの10年と今後の10年について考えさせることで学習の見通しをもたせる。次に自分自身の10年間のいろいろなものから調べて、自分の知らない過去の自分を発見したり、いろいろな人に話を聞いたりなどして中間発表会を行う。さらに10年後の自分の夢を考える。周りの大人に10歳の頃どんな夢を持っていたかを聞いたり、小中一貫を意識して9年生にゲストティーチャートして自分の夢のためにどんな努力をしているかを聞いたりして、自分の夢を実現するための方法を調べていく。

最後に「1/2成人式」を内容の計画を立て、準備して実行する。本校では2部構成でまず体育館で学年全体の群読・合奏・発表などを行い、その後教室に戻り自分のことを発表するという形の会だった。その時に使った資料も最後に添付させていただいたので、ご覧いただきたい。

部長

資料もありイメージできるのでいい事例になるのではないかと思います。最初の朗読会については小中一貫の有効性が弱いという問題があった。

形式的なことだが、先ほどの練馬大根の実践では指導上の留意点に表現力を構成する力の要素としての5本柱を入れてもらっているが、今の資料ではそうになっていない。本部会として統一する必要があると思うがどうか。

委員

イベント型の活動をする上では、各時間こういう力に焦点を当てていくというポイントを入れないと、この時間に何をしたらいいかあいまいになってしまう。

部長

ではそうしましょう。次に「環境から学ぶ」について説明をお願いしたい。

委員

まず、ねらいだが上から二つは総合の本から持ってきた。三つ目は表現力のことを書いてあるのでカットでいいと思う。表現力の育成との関連では、はじめに第Ⅱ期の子どもがどういうことを中間報告書から抜き出し、ドラムジカがあまり知られていないということで説明を加え、これを実践することでねらいに書いた主体的、創造的、共同的な表現活動につながるとまとめた。小中一貫教育校で期待される効果は4年生の実践の方で、表現力部会では9年間で表現力をつけるために積み上げが大事であり、この時期にはこんな活動をしてこういう力をつけることが期待できる効果だという内容でまとめてみたが、これでよいかどうか分からず6・7年の方では書かなかった。

部長

9年間の教育プログラムの中で、第I期にはこういう力をつける。そのためにこの事例が本当に有効だということを書きたいということか。

委員

それしか考えつかなかったのだが、そうするとどちらの事例もほぼ同じような内容になってくる。よく読んでもらえれば分かるかもしれないが、我々の話し合いを知らない人が見ただけでは理解するのは難しいと思う。表現力との関連をしっかりと固めて、期待される効果というのではなくてもよいのではないかと思った。

部長

どちらの事例も表現力との関連のプロットで、それぞれの期の子どもたちの特徴や実態を説明して、この時期の子どもにはこういう力をつけることが大事だということを書いているが、その部分を期待される効果の方に移すということか。

委員

期待される効果をその視点で書くと、ほとんどの事例で同じような文章が書かれることになり、読まなくなってしまうと思う。部長が提案した本事例でつけたい力を具体的に書くほうが先生たちにとっては見やすい資料になるのではないか。

部長

事務局としてはあのフォーマットはもう変えるつもりはないものなのか。

事務局

変わらないと思う。

部長

今のところまでの問題点は明らかになったが、次の指導計画からまた説明をお願いしたい。

委員

指導計画では一般的にここを押さえておけば動いていくというものを出している。前回それだけではイメージしにくいという宿題があったので、今回は資料としてこんな流れでやってみれば一つの舞台が出来上がるというような台本のようなものを用意してみた。全体としてドラマジカ特有の既成曲をつなげて一つのテーマを伝えていく内容で、学習したあと各自の思いや意見を舞台の最後に発言できるようにセリフの部分を加えてある。

指導上の留意点では本来入るはずの評価が抜けてしまった状態になっており申し訳ない。

部長

前回の資料より本当に分かりやすく、イメージできるようになった。指導上の留意点で調べる力、組み立てる力などつけたい力とその説明を書いているが、こういう形で表現力のポイン

トを書いたほうが良いと思ったか。

委員

ここではこういう力をつけるというのは書いてあったほうが、利用する側には親切だと思う。ただ、説明は決まり切った文言でしか書いてこなかったのが、先ほどの練馬大根の事例のように分かりやすい言葉におろした方が良いと感じた。

部長

表現力部会ではこの題材を表現力育成のために使うということが強調された書き方が良いと思う。またいくつか問題点も明らかになったので、あとで議論したいと思う。次にディベートの事例について説明をお願いしたい。

委員

意見主張型がないということでディベートに戻った。それぞれのプロットの書き方については、大分間違っているところがあるので、そこは直したいと思う。先ほどから問題になっている期待される効果の部分では、5年生から中学校の校舎に入ること、稚拙な考えや幼稚なものにとらえ方から少し大人びた世界へということが期待されると、自分なりにこじつけてみた。テーマについても「開発か自然保護か」などは小4でもできる話題だと思うが、もう少し例のレベルを下げて5・6年に対応するようなテーマ設定をしてはどうかと思っている。

部長

同じ意見主張型で「主張大会」の説明を続けてお願いしたい。

委員

2回休んでいて、どう書いていいか分からず全然違うものをつくってしまい申し訳ない。1番、2番は、もう一度練り直して来る。問題の3番だが、なぜ一緒にやるのが小中一貫なのか疑問で、先ほどから言われているように1年生で身につける力、2年生で身につける力でもいいのではないと思う。小1に中3の主張が分かるとも思えないので、乱暴だが3番の期待される効果などなくてもいいと思ってしまう。

裏のワークシートは採点表で、発表のよい点やよい工夫を書く。あまりマイナスということではなく工夫した方がよいのではということも書き、最終的に順位をつけていく。この主張大会は夏休みの宿題としてよくやらせていたが、部活や家族のこと、環境問題や話題になっていることなど身近なことに限定してテーマを投げかけていた。

部長

中学校の弁論大会、主張大会というのはあまり見たことがないのだが、プレゼンテーションしながら自分の意見を主張する子もいるのか。

委員

いた。資料や写真を使ったり、黒板に掲示したものをレーザーポインターを使って説明した

りしていた。最初はしゃべる内容だけで順位をつけていたが、発表の工夫の点で評価しようなど、その都度評価のねらいを決めてやったこともあった。

部長

この事例の指導の中で重要なところは、テーマを決めるところとプレゼンの方法の工夫点、最終的には表現を視点とした評価の部分かと思う。指導計画の中で、テーマを決める時、途中でプレゼンを作っていく時、最後にプレゼンを聞いている時の指導が分かるものが入っているといいと思った。

小学校籍の方でディベートならば5・6年の段階ではこんなテーマがいいというのをもっている方はいるか。

委員

6年生の国語の教科書で学級討論会をしようというのがあり、「学級文庫にマンガを置くのはいいか悪いか」みたいな例が出ている。意見を言い合って、それぞれいいところを発表するのだが、ディベートと違って勝敗はつけない。国語ではなく総合的な学習の時間ならいいのかもしれないが、5年生が6年生より一歩進んだディベートをやるのはどうかと思う。

委員

昔担任だった頃は「飼うなら猫がいいか犬がいいか」といった簡単なテーマで、勝敗をつけるディベートをしたことがある。5年生がやるには例として出されているものは難しい。

部長

「開発か自然保護か」というテーマの場合、開発や自然保護に関する新聞記事など具体的な事例・事象があって、なおかつ相反するようなものを示さないと子どもたちは問題意識をもたない。抽象的な言葉だけでどちらがいいかという議論ではだめで、テーマを話し合うまでの準備が必要になってくる。

委員

これは総合的な学習の時間を想定しているので、開発や自然保護についてそれなりに調べたことを基に話し合う。

委員

うちの6年生は「授業中シャーペンを使ってもいいか」「教室で生き物を飼うのはどうか」というのをやったそうだ。結論がどう出たのかまでは聞いていない。

委員

総合的な学習の時間でやるなら少し調べを入れて発表し合い、討論するという形だと思う。「猫がいいか犬がいいか」のようなテーマで話し合いだけだと国語になってしまう。総合として調べを入れてやるとなると、やはり6年生ではちょっと難しいと思うが、どうか。

【その他テーマとして出た意見】

「お弁当がいいか給食がいいか」「インスタント食品はいいか悪いか」

「シルバーシートはあったほうがいいか」「コンビニの24時間営業は必要か」

部長

中学生が子ども議会に行く前に、未来の練馬区をこうしたいと主張するような場面を設定してはどうかと思い、もう一つマトリックスに加えていたがこれはカットでもかまわないと思う。

それでは次に「しつもんする」と「モードチェンジ」をお願いする。

委員

前回とあまり変わっていないが、1～3番目のプロットをどうからませて書くのがいいのか分からず、先ほどから問題になっている期待される効果については、ぼやかして書いてしまった。指導案は前回のもので変わっていない。

「しつもんする」の方はソーシャルスキルの出版物から内容やワークシートのカットを取りこんでいるので、著作権の処理が必要になる。

あと部長から連絡をいただいた語い力の方は、二人で音読発表会の事例を挙げるより、違うものを考えてきた方がいいと思ひ、ずっと引っかかっていた読書に踏み込んできた。日常的な読書の推進をし、語い力を表現化するというこゝで、ブックリストの作成と発表を事例として持ってきた。他にも本の帯や手書きの広告、読書新聞を作ったり、ブックトークをするなどいろいろあると思う。日常的に読書が推進されていかないと語い力は育たない。読書量を増やし文脈の中で言葉の意味や用語をとらえて、自然に語いを増やしていく基盤を作ることをねらいにできたらいいと考え書いてきた。語い力は短期間での形成は無理なので、小中一貫の9年間を使って継続的な取組が必要というところにもっていきたいが、指導案にするのは難しい。

部長

確かに指導案にするのは難しい。語い力は9年間通して身に付けていくということは本部会でも共通理解されている。他の事例とは違い1時間、1単元がどうという問題ではないので、同じような書式で指導計画があるというのはそぐわないような気がする。

この時期にはこんな読書活動があるという形で、先ほどのブックトークや読書新聞などを9学年の中に散りばめ、9年間の読書活動のおおよその計画を作ったほうがいいのではないかと思うが、事務局としてはどうか。

事務局

語い力は各学習期の目標がないので、実践できる活動を並べていくということ。

部長

語い力については日常的に積み重ねていかなければならないというのが大事なキーワードだと思う。何々の時間と設定できるものでもなく、他の事例と同じような指導計画の形では書けない部分もあると思うので事務局で検討してもらいたい。

事務局

了解した。

部長

音読についてはどうか。

アドバイザー

結果的には語い力の強化になるが、この時期にどういふ語い力をつけさせるのかというのが難しく、表現を楽しむことを追求されるものなのでイベント型の活動の方に入れてはどうか。

部長

下級生を楽しませる朗読発表会、音読発表会というのはどの期でもできると思うが、中学生で朗読みたいなことはやるのか。

委員

詩などは授業の中でやるが、授業以外ではやらない。

委員

質問だが、「モードチェンジ」というのは国語の扱いでいいのか。確か学活と特活、生活科の中でやっていこうという事だったと思うが。

委員

体力の向上部会でも体育から持ってきているので、一つくらい国語でもいいのではないか。

部長

今日提出してもらったものについては一応終わったが、たくさん課題が出たので確認されたことと次回までに明らかにしなければならないことを整理する。その前にアドバイザーからお話をいただきたい。

アドバイザー

皆さんのお話で論点も煮詰まり、課題も絞られてきていると思うが、一番難しいのは小中一貫教育で期待される効果という部分だと思う。私としては一緒にやるということにこだわる必要はないと思う。9年間の一貫したカリキュラムがある訳ではないが、私たちは一応そういうものを頭に置きⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期と考えている。だから9年間のカリキュラムの中でこの事例はどのような位置づけなのかというのを書くのが一番いいのではないかと思う。ドラムジカの例でいえば「第Ⅱ期の子どもの関心」だとか「第Ⅰ期では」というのは、本事例と表現力の育成との関連ではなく、本事例が小中一貫教育校で期待される効果の方に移した方が、むしろ分かりやすくなると思う。それから、長々と書こうと思うと大変なことになるので、その必要はないと思う。異学年交流はやれるならやったほうがいいが、一貫教育といってもそれにあまりこだわる必要はないと思う。

部長

それではご指導いただいたことも含め、今日のおさらいをしたい。

【検討内容の確認と課題の再検討結果の概略】

1. 原稿の書式等について

- ・プロット1の「活動のねらい」には総合的な学習の時間や学級活動など本来その領域が持っている活動のねらいを書く。
- ・プロット2の「本事例と表現力」には昨年度、本部会でまとめた表現力の育成プラン、重視する指導項目を意識して抜き出し、関連性が高まるように書く。
- ・プロット3の「本事例が小中一貫教育で期待される効果」には小中合同で活動を行う（小中一貫教育でなければできない）場合にはそれについて書き、必ずしもそうでない（小中一貫教育でなくてもできる）場合は9年間のカリキュラムの中でどのような位置づけにあるかを、各期の目指す子ども像を意識しながら書く。
- ・プロット4の「指導計画」では時数を必ず入れる。指導上の留意点には表現力を高めていく上で、この活動は重視する指導項目のこの力をつけるために有効という形で記述をする。
- ・発表会などのイメージができるよう写真がある場合は写真、ない場合は各委員が美術の委員へ依頼し、図におこしてもらいそれを載せる。
- ・原稿データについてはデジタルデータで事務局に提出し、フォントやポイントについても事務局で統一する。
- ・一つの事例につき4ページから6ページとし、全体として60ページになるようにする。文字を増やす必要はなく、読んだ人がイメージしやすいようにイラスト、プログラム、会場、準備するもの、パンフレット、ワークシートなどを入れる。
- ・ICT活用の表を入れる。
- ・2単位以上の活動では大まかな活動内容を示し、本時の指導案を入れる必要はない。

2. 事例のマトリックスについて

- ・「1／2成人式」は自己表出型から意見主張型の活動の第Ⅰ期に移す。
- ・「夏休みチャレンジ発表会を開こう」は国語で扱い、同じような単発の事例については教科扱いとする。
- ・「未来の練馬区」は意見主張型の活動の第Ⅱ期から削除する。
- ・語い力については無理に国語科に結びつけず、9年間の読書活動への提案という形にする。
「音読（朗読）発表会をしよう」の読み聞かせに関しては、読書を通して語い力を強める一つの活動として取り込んでいくが、詩の朗読や暗唱については表現を楽しむという要素が強いので、読書とは関連付けない。

（第14回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認）

8月31日（火） 16:00～

場所：練馬区役所本庁舎 19F 1906 会議室

部長

では表現力の部会を終わりたいと思う。お疲れ様です。ありがとうございました。